

新ドメイン対応ガイド～3G/4GMDK・MDK レス～



VeriTrans 4G

新ドメイン対応ガイド

～3G/4GMDK・MDK レス～

Ver. 1.0.1 (2024年3月～)

目次

1 はじめに.....	3
2 クレジットカード決済をご利用の場合（MDK トークンの対応）	3
3 MDK をご利用の場合.....	4
3.1 Java 版 MDK.....	4
3.2 PHP 版 MDK(PHP 5.3 以上、および PHP 8 版).....	4
3.3 .NET 版 MDK(.NET、および.NET Framework 版).....	5
3.4 Ruby 版 MDK.....	6
3.5 Node.js(TypeScript)版 MDK.....	6
3.6 Go 版 MDK	6
4 MDK を利用せず決済サーバーへ接続している場合（MDK レス）	7
5 ブラウザの画面遷移に関する補足.....	7
6 参考情報.....	7

改訂履歴

2024/1 : Ver1.0.0 リリース

2024/3 : Ver1.0.1 リリース

3.1 Java 版 MDK

ver 1.9.0 以下をご利用の場合の手順に、cacerts ファイルへの更新に関する説明を追加
(Java 1.8.0_131 以降に含まれる cacerts に更新)

1 はじめに

本ガイドでは VeriTrans4G-MDK および VeriTrans4G 接続 API における接続先ドメインの変更方法を説明します。

主に以下の 2 点の変更が必要となります。

- ◇ クレジットカード決済でトークン取得する際のアクセス URL のドメインの変更
- ◇ 加盟店サーバーから弊社サーバーへ接続する際のアクセス URL のドメインの変更

2 クレジットカード決済をご利用の場合（MDK トークンの対応）

クレジットカード決済をご利用の場合は通常、加盟店サイトにて、カード情報を消費者ブラウザからトークンサーバーへ JSON で送信する JavaScript が実装されています。トークンサーバー接続用 URL のドメインが api3.veritrans.co.jp に変わりますので、以下のように変更してください。

旧：<https://api.veritrans.co.jp/4gtoken>

新：<https://api3.veritrans.co.jp/4gtoken>

MDK トークンの詳細については、『MDK トークン 開発ガイド』をご参照ください。

補足：Content Security Policy (CSP) について

加盟店様の実装によっては、HTML の<meta>要素、または応答 HTTP ヘッダーで Content Security Policy を設定している場合があります。

ブラウザが通信可能な外部ドメインを制御するために <https://api.veritrans.co.jp> を許可している場合は、<https://api3.veritrans.co.jp> も併せて許可するよう変更する必要があります。

※決済フローに消費者ブラウザが介在する場合の、ブラウザから決済サーバーに遷移する際のアクセス URL の制御は、弊社にて順次切り替えを行いますが、当面の間は旧ドメインに遷移することになります。

変更後、問題なくカード情報を送信してトークンを取得できているか、入念なテストをしていただくようお願いいたします。

Content Security Policy の詳細については、MDN Web Docs 等をご参照ください。

[コンテンツセキュリティポリシー \(CSP\) - HTTP | MDN \(mozilla.org\)](https://developer.mozilla.org/ja/docs/Content_Security_Policy)

3 MDK をご利用の場合

3.1 Java 版 MDK

3GPSMDK.properties の通信先ホストを変更してください。

旧：HOST_URL = <https://api.veritrans.co.jp:443>

新：HOST_URL = <https://api3.veritrans.co.jp:443>

◆ ver 1.9.0 以下をご利用の場合

現在ご利用の MDK に同梱されている cacerts ファイルに DigiCert Global Root G2 証明書が含まれていないため、<https://api3.veritrans.co.jp> へ接続することができません。Java 1.8.0_131 以降に含まれる cacerts ファイルに更新するか、最新の Java 版 MDK へのバージョンアップをお願いいたします。

なお、Java 版 MDK は ver 1.9.1 より、3GPSMDK.properties にて **SSL_TRUSTSTORE_FILE** が指定されていない場合は、JDK 標準の証明書ストアを利用するよう改善されております。MDK を入れ替える際は、最新の Java 版 MDK に同梱された 3GPSMDK.properties へ **MERCHANT_CCID** や **MERCHANT_SECRET_KEY** 等の設定をマージする形でご利用いただくことを推奨いたします。

3.2 PHP 版 MDK(PHP 5.3 以上、および PHP 8 版)

3GPSMDK.properties の通信先ホストを変更してください。

旧：HOST_URL = <https://api.veritrans.co.jp:443>

新：HOST_URL = <https://api3.veritrans.co.jp:443>

補足：VeriTrans 3G の MDK をご利用の場合

VeriTrans 3GMDK for PHP ver 3.0.0 以降は、同梱の cert.pem に DigiCert Global Root G2 証明書が含まれているため、通信先ホストの変更だけで新ドメインに繋がりますが、もし接続テストが失敗するようであれば、最新の VeriTrans 4G 用の MDK への入れ替えをご検討ください。

3.3 .NET 版 MDK(.NET、および.NET Framework 版)

3GPSMDK.ini の通信先ホストを変更してください。

旧 : HOST_URL = <https://api.veritrans.co.jp:443>

新 : HOST_URL = <https://api3.veritrans.co.jp:443>

.NET 版 MDK の場合は実行環境の証明書ストアが利用されるため、OS や実行ランタイムが適切にバージョン更新されている場合は証明書ストアの更新は必要ありません

接続できない場合は、証明書ストアに DigiCert Global Root G2 証明書が含まれているかご確認ください。

補足 : NuGet パッケージ対応版で 3GPSMDK.ini を利用していない場合

NuGet パッケージでリリースしている .NET Standard 2.0, 2.1 / .NET 6.0 対応版 MDK では、以下の 3 パターンでのマーチャント設定の初期化ができるよう改善されています。

◇ FileInfo クラスのインスタンス指定

```
var config = new MerchantConfig(_logger, new FileInfo(@"C:\somedir\3GPSMDK.ini"));
```

この場合は、参照先 3GPSMDK.ini での通信ホストの修正で対応可能です。

◇ 3GPSMDK.ini の文字列指定

```
var config = new MerchantConfig(_logger, iniFileContentString);
```

この場合は、string 型として渡す文字列の中での通信ホストを修正してください。

◇ マーチャント CCID、マーチャント認証鍵のパラメータ指定

```
var config = new MerchantConfig(_logger, "{merchant_ccid}", "{merchant_secret}");
```

パラメータ指定の場合は、MerchantConfig クラスにハードコードされた既定の通信先ホストが利用されます。最新の MDK に入れ替えていただくか、インスタンス初期化時の引数で明示的に新ドメインを指定してください。

```
var config = new MerchantConfig(_logger, "{merchant_ccid}", "{merchant_secret}", hostUrl: "https://api3.veritrans.co.jp:443");
```

マーチャント設定のインスタンス化対応の詳細については、MDK インストールガイドを参照ください。

3.4 Ruby 版 MDK

tg_mdk.ini の通信先ホストを変更してください。

旧 : HOST_URL = <https://api.veritrans.co.jp:443>

新 : HOST_URL = <https://api3.veritrans.co.jp:443>

補足 : VeriTrans 3G の MDK をご利用の場合

VeriTrans 3GMDK for Ruby ver 3.0.0 以降は、同梱の cert.pem に DigiCert Global Root G2 証明書が含まれているため、通信先ホストの変更だけで新ドメインに繋がりますが、もし接続テストが失敗するようであれば、最新の VeriTrans 4G 用の MDK への入れ替えをご検討ください。

3.5 Node.js(TypeScript)版 MDK

MerchantConfig クラスのコンストラクタのデフォルト引数に通信先ホストが定義されています。最新の Node.js 版 MDK に入れ替えていただくか、インスタンス初期化時の第 4 引数で明示的に新ドメインを指定してください。

```
return new MerchantConfig("{merchant_ccid}", "{merchant_secret}", "0", "https://api3.veritrans.co.jp");
```

3.6 Go 版 MDK

merchant_config.go に MerchantConfig 構造体の初期化メソッドが定義されています。最新の Go 版 MDK に入れ替えていただくか、初期化時のフィールドの値として新ドメインを指定してください。

```
func NewMerchantConfig(merchantCcid string, merchantSecretKey string) *MerchantConfig {  
    return &MerchantConfig{  
        Host: "https://api3.veritrans.co.jp",
```

4 MDK を利用せず決済サーバーへ接続している場合（MDK レス）

加盟店システムの実装をご確認いただき、VeriTrans3G/4G 決済サーバーのドメインを定義している箇所を <https://api.veritrans.co.jp> から <https://api3.veritrans.co.jp> に修正してください。

通常、TLS 通信で問題が発生することはありませんが、証明書の検証に失敗する場合は、実行環境の証明書ストアに DigiCert Global Root G2 証明書が含まれているかご確認ください。

5 ブラウザの画面遷移に関する補足

決済フローに消費者ブラウザが介在する場合の、ブラウザから決済サーバーに遷移する際のアクセス URL の制御は、弊社にて順次切り替えを行いますが、当面の間は旧ドメインに遷移することになります。加盟店サーバーからのアクセス URL のドメインを新ドメインに変更しても、ブラウザからの遷移時には旧ドメインにアクセスする状態が続きますが、これは正常な挙動ですのでご安心ください。

2025 年 2 月までにはすべての接続が新ドメイン環境に切り替わります。

6 参考情報

- 新ルート証明書 :DigiCert Global Root G2 (S/N: 033af1e6a711a9a0bb2864b11d09fae5)
<https://cacerts.digicert.com/DigiCertGlobalRootG2.crt.pem>
- SSL/TLS サーバー証明書のルート証明書、および中間 CA 証明書変更に関するご案内
<https://knowledge.digicert.com/ja/jp/generalinformation/INFO2525.html>
- レポジトリサイト(公式)
<https://www.digicert.com/kb/digicert-root-certificates.htm>